

## 元気 はかまのっ子

袴野小学校は、大正4年2月8日、福田村七滝村2か村尋常小学校組合立袴野小学校として創立し、平成27年には創立百周年を迎えます。昭和23年1月21日には、袴野中学校ができました。昭和23年当時は、小学校125人、中学校31人、合計156人の児童生徒が通う学校でした。

学校は、「なかよく、かしこく、たくましく」の校訓のもと、元気いっぱいのはかまのっ子を育ててきました。今年は、中学校は0人で休校ですが、7人の小学生が毎日元気に登校しています。

### ●児童ちかいの言葉●

私たちは、元気なあいさつをします。  
 私たちは、一生懸命勉強します。  
 私たちは、強い心の子どもになります。  
 私たちは、協力して美しい学校をつくります。



### 一番心豊かな学校



地域の方を訪問しお話を聞く子どもたち

子どもたちは、米やさつまいも、たまねぎ、じゃがいもなどの栽培に汗をながし、自然の大切さとともに自然の恵みに対する感謝の心を育てています。熊本県内でも一番小さな学校の一つですが、一番心の豊かな学校ではないかと自負しています。

地域の人々とのつながりを大切にしていることも自慢の一つです。校区のほとんどの人が参加する運動会は0歳から参加しています。校区全戸へ自分たちで育てた花苗配りをしながら、多くの人からお話を聞く活動もしています。

また、校区内外の人を招いての文化祭では、地域に残る出来事を題材に劇を作り披露してきました。昨年度の劇は、豪雨で被害を受けた村を、私財を投げ出し復興を助けた人への感謝の気持ちを忘れない人々の優しさを描きました。今年度は、11月13日(日)に文化祭を開催する予定です。

### 確かな学力のつく学校

人数の少ない学校だから、発表力や表現力がつきにくいのではないかと心配する人がいますが、全く逆の結果となります。人数が少ないことは、発表する機会が多くなることを意味します。学習の時間や児童集会では、毎回必ず発表することになります。町の人権フェスティバルでも毎年全員が多くの人の前で発表する機会を与えられています。

平成23年度から小学校では、新しい指導要領による学習がスタートしました。ここでの課題は「生きる力」を育てることです。基礎的・基本的な知識・技能と、それを活用しての思考力、判断力、表現力を育てていくことが大きな目標として掲げられています。教師の指導だけでなく、子どもたちが考え、判断し、表現することについていくつもの学校で研究されてきていますが、袴野小学校では、複式授業の中で自然にこの形ができあがり、長い積み重ねがあります。



文化祭での子どもたちの熱演